出発～知覧到着まで

6 月25、26日に「知覧　心の旅　2014」という名の研修旅行に行ってきました。
院長をはじめ、スタッフ5人での参加でした。

みなさんは“知覧”という場所を知っていますか？鹿児島県にある、特攻基地が置かれた町のことです。私達はそこで起こった事実やその時代に生きた方々の想いを直接目で見て、肌で体感してきました。それを知った今、私達はこれからの人生をどのような想いで生きていくのか。どのように仕事をしていくのか。という意味に気づかせていただきました。

25日、朝4:55に佐野アウトレットから出ているバスに乗り、羽田空港へ向かいました。
朝、早かったです（笑）3:00起きの人がほとんどで眠る人もいれば楽しく会話をする人もいました。そして、6:10頃羽田空港へ到着。
羽田から鹿児島空港へは8:20発の飛行機だったため、羽田空港にあるモンタボーというパン屋さんで朝食をとりました。ちょうど焼きたてで、とっても美味しかったです。お腹も満たされたところでいよいよ飛行機に乗り込み、
飛び立ちました。機内から見える空が青くてまるでCG のようでした。また、CA さんの乗客への配慮や気遣いにも感動しました。

10:05無事に鹿児島空港に着き、共に旅をする他の医院の仲間たちと合流しました。

京都や長野、神奈川など色々な地方から来られていて、方言やなまりが新鮮でした。

総勢35人でバスに乗り、知覧町へ向かいました。バスの座席は、他の歯科医院の方と隣に座る

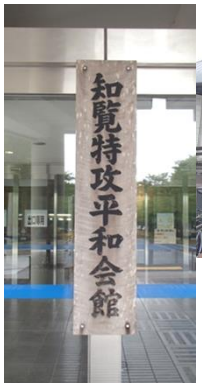
ということで、初対面の方たちばかりで最初は緊張したのですが、住んでいる場所は遠くても同じ仕事をしているのですぐに打ち解けることができました。

到着までの間、自己紹介と意気込みを１人１人発表し、気持ちを高めあいました。

小林　加奈

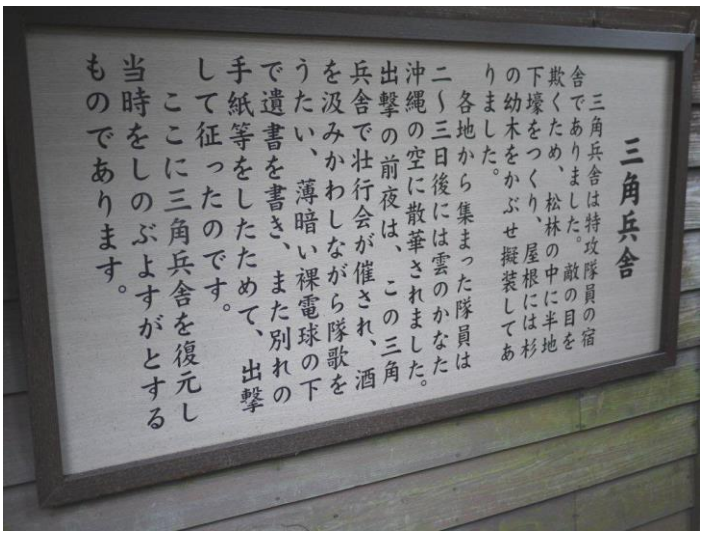
知覧到着～特攻平和会館・鳥濱さん講演

知覧町に到着して、まず向かった先は知覧特攻平和会館です。この知覧特攻平和会館は大東亜戦争末期（戦後は太平洋戦争ともいう）の沖縄戦で、飛行機もろとも敵艦に体当たりした特攻隊の方達の遺影や遺品、遺書、関係資料などが展示されています。



20代前後の若い隊員の方達の勇ましい姿の写真や、愛する家族・恋人へ宛てた遺書はどんな気持ちで書いたのかと思うと、本当に胸が苦しくなりました。また、中には海に墜落し引き上げられた零式戦闘機も展示してあり、機体は前半分ほどしか残っていませんでしたが、すごく大きくて、こんなに大きな飛行機を操縦していたのかと驚きました。

外には、出撃を待つ特攻隊員が使っていた三角兵舎を復元したものもあり、実際に中にも入れます。半地下式の木造の宿舎は薄暗く、居心地の良いものではありませんでした。



平和会館には、桜並木があります。
その場所は、映画「俺は、君のためにこそ死ににいく」
の撮影に使われています。

平和会館を見学した後は、特攻の母と呼ばれた鳥濱トメさんのお孫さんの鳥濱明久さんの講演を聞きました。明久さんは、小さい頃からトメさんに戦争の話や特攻隊員の方達の話を聞いていたそうです。そして、戦争を知らない多くの人達に当時の史実を知ってもらおうと語り継いでいらっしゃいます。平和会館に展示されてあった資料では知ることのできないお話を教えてくださいました。

その後は、鳥濱さんと共にバスに乗り、三角兵舎の跡地、映画「ホタル」の撮影場所、出撃地を見学しました。今は、当時の風景とは違いますが、大地を踏みしめて空気を感じてきました。

平和会館の敷地内から周辺の道路沿いには、
特攻隊の方達の燈籠が１人1個置かれています。
その数は、1200本を超えているそうです。

生きてこられない。愛する家族、恋人にも、もう二度と会うことができない。。。様々な思いを抱きながら出撃し、命を散らせた特攻隊員の方達の気持ちを想像すると涙をこらえることはできませんでした。

髙橋　由莉子

夕食～シェア大会まで

出撃地を見学した後は夜のシェアの時間のためにお酒やお茶、おつまみを買いました。そして鳥濱さんの講演を聞いた知覧茶屋へ戻って夕食でした。他の医院の方と色々なお話をしながらのしゃぶしゃぶです。やわらかいお肉でとても美味しかったです。

そして宿泊する富屋旅館へチェックインです。部屋割りは空港に到着した時に渡されていて、同じ医院の人とは分かれ他医院の方たちと一緒でした。
富屋旅館は元々、戦争中に軍の指定食堂とされた食堂で、特攻隊員たちが通った富屋食堂でした。隊員たちは食堂の女将、鳥濱トメさんを母のように慕い、トメさんは後に”特攻の母”と呼ばれ、亡くなるまで当時の特攻のこと、隊員たちのことを語り継ぎました。
食堂はのちに旅館になり、今も営業をしています。

チェックインのあとは全員が部屋に集まりシェア大会です。1人ずつ手を挙げて1日、見学や講演を聞いて感じたこと、思ったことを話しました。

日本の未来の人たちを想って亡くなった人たちがいたから今の時代があるということ、若くして亡くなった人は自分の人生が何十年もあって、やりたいことや、結婚して子供を

抱くことや孫の顔も見たかったんだろうと考えたら涙が止まりませんでした。
その人たちの分も自分は生きているということ、争いのない世の中をつくれるように人生をまっとうしようと思いました。
自分の気持ちを大勢の前で話をするのはとても緊張しましたが、山村先生が最初に、「今回の研修では皆の意見を、否定や評価をせず受け入れて、頷きながら聞いてあげてくださいね。」とお話していたので、少し気持ちは軽く話すことができました。
泣きながら話す方や自分自身を振り返りながら話す方、色々なお話をきくことができて、とても良い時間になりました。

椎名　冬子

2日目朝～女将さんの話

2日目の朝は、富屋旅館の大広間に集まりました。この大広間は、戦時中特攻隊の方々がよく訪れていた場所です。鳥濱トメさんが平和の語り場として使用してきました。その場所で朝ごはんをいただきました。

朝ごはんは、カイモ（蒸したおいも）、ガランツ（めざし）、ニギメシ（おにぎり）です。
少しシンプルな気もしますが、これは当時を思わせるメニューで、鳥濱トメさんが昔大臣が視察に来たときに出したメニューだそうです。

いただく前に、「何かおかしなところに気づきませんか？」と聞かれました。
お箸がなかったのです。当時もお箸がなく、「お箸がないです。」という大臣に、トメさんは一喝されたそうです。「どれもみんな手で食べられるものだ」と。私達も、当時を思いながら手でいただきました。当時はどれも貴重だった食べ物、今当たり前にお腹いっぱい食べられることがどれほど幸せなことかを強く感じました。

朝ごはんを食べ終わったら、机を端に寄せてみんなで富屋旅館の女将さんのお話を聞きました。当時の兵士たちの生活、トメさんの話、今を生きるということなどなど…。

最初に女将さんに「どんなことを徳と思いますか？」と聞かれました。
みなさんは、どんなことを徳と思いますか？父や母からなんといって育ててもらいましたか？御先祖から受け継いだ“徳”、それが宝、それが軸となっているのです。
「命よりも大切なものがある」それは“徳”を貫くことなのだそうです。“良きことのみを念ぜよ“とおっしゃっていました。

みなさん、自分の良さは何ですか？自分の良さを考えること、それは自分の命に責任を持つことになります。家族に何を差し上げてらっしゃいますか？友達に何を差し上げてらっしゃいますか？学校には？会社には？地域には？国には？世界には?地球には？
規模が大きすぎて答えられないかもしれません。私も女将さんに聞かれたとき、答えられない部分もありました。ですが、自分が本物になるために、自分が今何を出来るか、考えることは大切だと思いました。
人はみな、使命をもって生まれてきています。みなさんは自分の命をどう使っていますか？家族、友達同士、学校、会社、地域、国、世界、地球、それぞれでの自分の役割分担は何ですか？
こういうことを考えていると、できないことをやろうとしたり、していないことをしていると言ったりすることがあるかもしれません。ですが、無理をしてはいけません。自分にも他人にもうそをついてはいけません。自分ができることを貫くのです。では、自分が出来ることは何ですか？
女将さんの話は、このように自分自身に問いかけながら聞くという感じでした。自分は今まで何をしてこられたのか、これから自分に出来ることは何なのか、きちんと自分と向き合って考えることができました。
“己に負けるな”が“自分に負けるな”になってきていないですか？“人様のために”が“自分のために“になってきていないですか？今の日本は平和で、自由主義です。好き勝手することが自由ではありません。自由をはき違えてはなりません。「自分の命だぞ　粗末にするな　他者も同じ」私は、世のため人のために一生懸命になろうと思いました。
寝る前30分は、脳が学ぶ時間なのだそうです。寝る前30分に良いことを考えて、朝起きて鏡を見たときに、自分の目がキラキラ輝いているように、また、朝起きた時に手を合わせて“ありがとう”と言えるように、今ある幸せに感謝して生きようと思いました。

柳田　麻衣

大切な人への手紙～解散

女将さんのお話を聞いた後、私たちは別室にて DVD を観ました。特攻隊をモチーフにした映画「俺は君のためにこそ死ににいく」のダイジェスト DVD です。知覧研修に参加する前に観た時は、「かわいそうに…」という思いが観ていて強かったのですが、2日間参加してみて改めて観たとき、やはり思ったことが全然違いました。DVD を観て、「こんなに素晴らしく、美しく生きた先人たちに恥じぬよう、私も精一杯生きていこう」と心に決めました。

私たちが宿泊した宿には“想い結び処”という部屋があり、そこは、戦争をしていた時代、特攻隊の方々が出撃する前に大切な人へ手紙や遺書を残したことをもとに、知覧の地から大切な人へ手紙を書こう、という場所です。
私は、普段感謝の気持ちを直接伝えられていなかった両親に向けて手紙を書きました。
私の場合、自分で家に持ち帰って直接渡しました。両親はとても嬉しそうにしてくれて、私も「両親にあてて書くことができて良かった。」と思いました。
手紙を書き、そのまま旅館でお昼を食べた後は、みんなでバスに乗って鹿児島空港へ。
そのバスの中で、全員で2日間で感じられたことや感想を言い合いました。参加した方々がみんなそれぞれ本当に多くの、大切な学びを得られたようでした。

いよいよ、鹿児島空港につき、解散です。私たちしのだ歯科チームはその後空港でおみやげをたくさん買ってから帰りました。さつまあげやさつまいもスイーツ、かりんとうまんじゅう知覧で有名な知覧茶などおいしそうなおみやげが本当にたくさんあって、どれを買おうか迷っちゃいました♪

須長　里菜

おわりに

2日間の知覧心の旅を終えてみんなそれぞれ心に残ったものがたくさんあったようです。それらはすべて自分の目で見て、耳で聴き、肌で感じたものです。きっと深く記憶に刻まれたことでしょう。時が経って忘れても、アルバムを開いて写真を見たとき、あるいは誰かが知覧に行ったと耳にしたとき、今回の旅での思いや感情は鮮明に思い出されるに違いありません。

私も今回の知覧研修で新たに感じたことや改めて心に誓ったことなどたくさんありました。その中で特に心に中に浮かんできた言葉は「感謝」という言葉です。
同じ日本に生まれながら70年の時のずれでこんなにも境遇が変わってしまう事実を目の当たりにしました。現在の日本は、食べ物に困ることはありません。それどころか平気で食べ物を残し、当たり前のように捨てています。日常生活も物があふれ、とても便利で快適です。そして、それが当たり前のことと思い多くの人がありがたいと思う気持ちを忘れてしまっています。でも、今のこの平和な生活ができるのは約70年前に命がけでこの国を守ろうとした先人達がいたからということを忘れてはいけないと思います。

前途ある若い命、生きていたらやりたい事や叶えたい夢もたくさんあったでしょう。しかし彼らは生きることが許されなかった。そう思ったとき毎日の生活、まわりに起こるどんなことにも感謝の気持ちが湧いてきます。
朝目覚め新しい一日を迎えることができることにも感謝。家族の顔を見られることにも感謝。仕事ができることにも自然と感謝したくなります。

そしてもう一つ心に浮かぶ言葉は「使命」。
使命とは文字通り命を使うと書きます。知覧特攻平和館では、若者が自分の命を、国を守るため、愛する家族を守るために捧げると書いた遺書をたくさん目にしました。当時はもう自分の意志の入る余地さえなかったかもしれません。飛行学校に入学できる生徒は、当時ではエリート中のエリートです。戦争がなければ大学を卒業し社会へ出て様々な仕事に就いていたでしょう。社会の役に立ち、会社や地域のリーダーとして活躍しただろうと思

います。もっともっと自分の命を違った形で役に立て使いたかったに違いありません。
しかし彼らはそうすることができなかった。

そして、2011年3月東日本大震災が起こりました。多くの方々の尊い命が奪われました。
突然何の前ぶれもなく奪われた命。思い返すたびに心が苦しく痛みます。
戦争も災害も、生きたくて、生きたくて、それでも生きることができなかった人たちがいました。
そして今、命ある自分、生きている自分、生きることを許されている自分がいます。
自分の生活を振り返ると、己に勝つ！戦う相手は自分自身！と言いながらいつも連戦連敗。己に打ち勝てない自分がいます。
しかし、今回の「知覧　心の旅」を終え自分自身を省みたとき、自分はこの与えられた命を一体どう使うのか？何のために使うのか？誰のために使うのか？を深く考えさせられます。生きたくても生きることがかなわなかった人たちを思い、1分1秒たりとも時間を無駄にしないで大切に過ごしていきたいと思います。
自分の命を何のために使うのかはとても大きなテーマですが、私は、私の大切な使命の一つである歯科医としての仕事を精一杯行いたいと思います。今日訪れてくださった患者様に感謝して、お口の中から皆様が健康にそして幸せになっていただけるよう全力でお手伝いさせていただきます。

篠田　好雄